

## 20世紀初頭のセクショナルシステムによるジャケット設計

土井 昭子 (日本女大)

目的 1900年前後のセクショナルシステムという作図法とその特徴を知ることにより、当時の英国人女性の体型とジャケット設計を考察する。

方法 英国のテイラー、**JP.Thornton** (ソートン) が1900年に出版した婦人服の裁断法に関する文献を基に、セクショナルシステムの作図法と特徴を解析した。その上で、ソートンが決定した10体型のジャケットを製作し、平面作図と立体になったジャケットをそれぞれ比較した。また当時の標準体型をソートンが理想とした体型、さらに現在のJISの婦人サイズと比較した。

結果 セクショナルシステムは、人体各部の寸法を割り出し寸法と定数加減法によって決定し当てはめる分割計測法による裁断法であり、スケール(肩の広さ寸法の $\frac{1}{3}$ )を用いて後ろ身頃、肩部、ダーツ分量を決定して各体型に対応させることが大きな特徴である。ジャケットを設計した結果、平面作図だけでは理解しにくいそれぞれの体型の特徴が顕著に現れた。さらにソートンが最も理想的なプロポーションとして挙げている「メディチ家のビーナス像」と、当時の英国人女性、現在の日本人女性を比較したところ、ビーナス像と英国人女性はともに現在の日本人女性のLサイズに相当することが分かった。また、英国人女性はコルセットの影響で、ヌード寸法においてもウエストがかなり細目の数値を示すことも明らかになった。